

社会科（歴史的分野）学習指導案

授業者 庄原市立庄原中学校 佐々木 俊宏

- 1 学年 第2学年
- 2 単元名 「明治維新と近代国家の形成」
- 3 単元について

○単元観

本単元は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示） 歴史的分野 C近現代の日本と世界 (1)近代の日本と世界 ア (イ) 明治維新と近代国家の形成」を基に構想した。本項目では明治政府の諸改革の目的に着目して、例えば、「明治政府はどのような国づくりを目指したのだろうか」などの課題（問い）を設定し、明治政府の諸改革が政治や文化、人々の生活に与えた影響について、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察し、考察の結果を表現する活動などを工夫して、「明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解できるようにする」という、この事項のねらいを実現することが求められている。また、明治維新については、「複雑な国際情勢の中で独立を保ち、近代国家を形成していった政府や人々の努力」（内容の取扱い）に気付くことができるようにするとともに、近世の政治や社会との違いに着目して、近世から近代への転換の様子に気付くことができるようにすることも求められている。

また、本単元までには、幕藩体制の仕組みや身分制、市民革命・産業革命を経て近代社会を成立させた欧米諸国のアジア進出と我が国への接近等に伴う幕府の政治改革の経緯、幕末の幕政批判と倒幕・新政府樹立への動向など、明治維新につながる時代背景について学習しており、これらの既習事項を踏まえ、明治維新を世界の動きと関連させ、課題を追究・解決する活動を通して学習することが必要である。

○生徒観

令和5年度に実施された広島県児童生徒学習意識等調査の結果では、広島県平均よりも肯定的評価の割合が高い項目が多かったものの、「よくあてはまる」と回答した生徒の割合が相対的に低く、広島県平均よりも低い項目があった。その一部をまとめたものを下表に示した。

※()内は県平均、単位は%

	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	肯定的回答	否定的回答
ものごとを解決するとき、予想する	23.7 (28.7)	58.8 (49.5)	15.8 (17.8)	1.8 (3.9)	82.5 (78.2)	17.5 (21.8)
分類や関連付けをして考える	28.1 (20.2)	44.7 (45.1)	25.4 (27.9)	1.8 (6.8)	72.8 (65.3)	27.2 (34.7)
学習の進みぐあいなどを選んで学習する方がよい	31.6 (35.8)	48.2 (44.4)	17.5 (16.1)	2.6 (3.7)	79.8 (80.2)	20.2 (19.8)
自分に合った学習活動などを選ぶことができる	17.5 (21.2)	50.9 (40.9)	28.1 (28.4)	3.5 (9.4)	68.4 (62.2)	31.6 (37.8)

以上のことから、日々の授業の中で、予想をもって学習することや、ものごとを分類したり関連付けたりして考察すること、自分の理解度や学習の進度に合わせて教材や学習方法を選択させることについて、十分に実践、指導がなされていないのではないかと考えた。

○指導観

生徒の実態を踏まえ、本単元のねらいを達成させるため以下の2点に重点を置いて学習を進める。

- (1) 単元を通じて史資料を読み取り、読み取った情報を基に考察を行う場面を設定する。その際、内容や形式が異なるものを複数提示し、生徒自身にどの資料を担当するかを選択させることで、生徒自身が自分に合った学習活動や内容を選択する能力を養えるよう工夫する。また、個々人が読み取った情報をグループや学級全体で共有し、対話しながら分類させたり、関連付けさせたりする活動を取り入れ、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、他地域や前の時代の事象との比較を行うことで深い思考を促したい。
- (2) 本校では、生徒の実態や課題を踏まえ、育成すべき資質・能力として以下の5つを設定している。それを踏まえ、各教科で資質・能力を育成するキャリア教育の推進を通して、「将来の見通しをもち自らの成長を実感しながら主体的に学ぶ生徒の育成」を本年度の研究主題として、取組を進めている。その一環として、教科における目標を達成することを最優先としつつ、単元・授業ごとに下記の資質・能力のうち関連の深いものを「キャリア教育の視点で育成を目指す資質・能力」と設定することで、各教科の目標の達成とともにキャリア教育の充実を目指している。

資質・能力	具体的な力	3つの柱との関連
①情報収集力	課題解決に向けて必要な知識・技能を身に付ける力	生きて働く「知識・技能」の習得
②表現力	相手意識をもって、自分の考えや思いを表現できる力	「思考力・判断力・表現力」の育成
③協働する力	仲間や地域の方々と協力して課題を解決する力	
④行動力	課題解決に向けて主体的・積極的に行動する力	「学びに向かう力、人間性等」の涵養
⑤貢献 (自己肯定感)	学校、地域、社会に貢献する力 (仲間を思いやる気持ちや郷土愛なども含む)	

本単元では工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現するために、諸資料から学習課題に関わる情報を適切に読み取り、読み取った情報を分類させたり、関連付けさせたりする活動や、読み取ったことを根拠にして自身の意見を形成し、他者に自身の考えを説明する活動を取り入れることで、上記資質・能力の①及び②の育成にもつながると考える。

4 単元の目標

- (1) 開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解する。(知識及び技能)
- (2) 工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 明治維新前後の日本と世界について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。(学びに向かう力、人間性等)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解している。	工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	明治維新前後の日本と世界において、見通しをもって学習に取り組もうとし、自身の学習を振り返ったり、他者の考えを参照して自己の考えを調整したりして課題を主体的に追究しようとしている。

6 探究課題

本質的な問い	なぜ、歴史を学ぶ必要があるのだろうか？
単元を貫く問い	明治維新は、日本の歴史上どのような意味をもつのだろうか？
本時の問い	新政府はどのような国をつくらうとしたのだろうか？

7 単元の計画（全6時間）

○：「評定に用いる評価」 ●：「学習改善につなげる評価」

時数	学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
	<p>小単元の学習課題 「明治維新は、日本の歴史上どのような意味をもつのだろうか」</p> <p>【ねらい】：明治維新の過程の中で目指された国家を、諸資料を用いながら、その推移や背景、社会の変化に注目して考察し、当時の世界情勢との関連について理解する。</p>				
1 (本時)	<p>課題 「新政府はどのような国をつくらうとしたのだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習事項（江戸幕府の統治機構と開国への対応、19世紀当時の欧米諸国の政治・経済の状況など）と廃藩置県の詔などの諸資料を活用し、課題について考察し、発表する。 具体的な政策を予想・確認することで次時以降の学習に見通しをもつ。 	●	○		<ul style="list-style-type: none"> 資料から本時の課題に関わる情報を適切に読み取り、国民国家の基盤が形成されていくことを理解している。 ○廃藩置県や身分制度廃止などの諸政策の目的に着目して、江戸時代と比較をしながら、国家体制の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
2	<p>課題 「なぜ新政府は反発の声が上がるなか三大改革を推進したのだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学制、兵制、税制の改革の目的や当時の人々の受け止め方を示す資料を活用し、課題について考察し、ワークシートに記入する。 	○	●		<ul style="list-style-type: none"> 資料から本時の課題に関わる情報を適切に読み取り、三大改革によって人々の生活が大きく変化したことを理解している。 ●学制、兵制、税制の改革の目的を踏まえ、江戸時代と比較をしながら、社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
3	<p>課題 「殖産興業政策と文明開化は、人々の生活にどのような変化をもたらしたのだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 富国強兵のスローガンの下、殖産興業政策によって産業が成長していく様子や、文明開化によって人々の生活に変化が起こったことを示す資料を活用し、課題について考察し、発表する。 	○	●		<ul style="list-style-type: none"> 資料から本時の課題に関わる情報を適切に読み取り、殖産興業政策と文明開化によって人々の生活が大きく変化したことを理解している。 ●殖産興業政策と文明開化の背景や影響などに着目して、社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。

4	<p>課題 「新政府は欧米及び近隣諸国とどのような外交関係を結ぼうとしたのだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 岩倉使節団の活動の様子や近隣諸国との条約など近代的な外交関係を形成しようとしたことを示す資料を活用し、課題について考察し、ワークシートに記入する。 	○	●	<p>○資料から本時の課題に関わる情報を適切に読み取り、条約改正交渉の失敗や近隣諸国との新しい外交関係の形成によって新政府の政策が変化したことを理解している。</p> <p>●岩倉使節団派遣や近隣諸国との新しい外交関係形成の目的に着目して、江戸時代と比較をしながら、外交関係の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
5	<p>課題 「国境と領土の確定はどのように進められたのだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 近隣諸国との国境を示した地図や条約などの資料を活用し、日本と各国との関係を整理し、ワークシートに記入する。 	○		<p>○資料から本時の課題に関わる情報を適切に読み取り、近代的な外交関係の下で国境を画定していったことを理解している。</p>
6 小単元のまとめ	<p>小単元の学習課題 「明治維新は、日本の歴史上どのような意味をもつのだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 小単元の学習を振り返り、明治維新の過程が、どのような状況への対応として生じたのか、その過程はどのような政治や社会の在り方を目指していたものであったのかなどについて、国外や国内の情勢を関連付けて、目的やねらい、背景や影響、原因や結果などによって類型化したり、論理的に結び付けたりして多面的・多角的に考察し、ワークシートに記入する。 整理した事項を基に課題について考察し、レポートを作成する。 	○	●	<p>○これまでの学習内容から、課題の解決に関係する情報を選択し、適切に記入している。</p> <p>●小単元の課題について、学習内容や級友の考えを振り返ったり、分かりやすい表現になるよう工夫したりするなどして、追究しようとしている。</p>

8 本時の目標

新政府はどのような国づくりを目指したのかについて、廃藩置県や身分制度廃止などの諸政策の目的に着目して、江戸時代と比較をしながら、国家体制の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。
(思考力、判断力、表現力等)

9 学習展開 (第1時/全6時間)

○：「評定に用いる評価」 ●：「学習改善につなげる評価」

展開	学習活動と指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1 既習事項を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の滅亡により、260年余り続いた政治制度が崩壊し新しい政治が必要とされたことを復習させる。 	
2 本時の問いを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 本時の問いについて知り、本時の見通しを持たせる。 	
<p><本時の学習課題> 新政府はどのような国をつくろうとしたのだろうか？</p>		

なぜ新政府は諸改革を推進しなけりばならなかつたのだろうか？

- 3 既習事項を踏まえ、問いに対する予想を立て、グループで交流する。
- 4 五箇条の御誓文から、どのような方針で国家運営を進めようとしたのかを読み取り、交流する。
- 5 御誓文のような方針を立てたのはなぜか、新政府の改革の目的について、それぞれの資料から必要な情報を読み取り、考察し、交流する。

- ・既習事項を振り返らせるとともに、本単元を貫く問いに対する学習の見通しを持たせる。
- ・新政府は、公平な議論を行って、身分にかかわらずすべての人が協力する国をつくろうとしたことを理解させる。
- ・各グループに配付された3種類の資料の内、どの資料を担当するか分担（選択）させ、その内容を読み取らせる。

●資料から本時の課題に関わる情報を適切に読み取っている。【技能】（ワークシート、行動観察）

〈資料の内容〉

資料① 廃藩置県の詔

資料② 当時の欧米諸国の様子 ※同時期の他地域との比較

（アヘン戦争、イギリスの議会・工場・鉄道などの図版）

資料③ 江戸幕府の政治体制と対外危機への対応 ※過去の日本との比較

（幕藩体制の仕組み及び藩の分布や薩英戦争・四国艦隊下関砲撃事件などの図版、開国・通商をめぐる大名の意見の集計など）

- ・資料から読み取った情報を基に考察して形成した自身の考えをグループ内で交流させる。

〈予想される生徒の反応〉

資料① 廃藩置県の詔

藩を廃して中央集権化することで、二重行政の無駄を省いて簡素化し、有名無実化した藩の弊害を除き、政治に関わる命令が多方面から出る心配をなくすことで、国としてまとまって欧米諸国と対等に付き合っていけるようにしたいと考えたのではないか。

資料② 当時の欧米諸国の様子 ※同時期の他地域との比較

当時の欧米諸国は、市民革命を経て立憲体制や議会政治などの新たな国家体制に変わっていった。また産業革命によって工業や軍事の技術も発達し、アジア諸国に比べ経済力・軍事力で優位に立ち、アヘン戦争などアジアへの進出を強めていた。このことから、日本も工業技術や軍事力を高め、欧米諸国に対抗できるような国をつくろうとしたのではないか。

資料③ 江戸幕府の政治体制と対外危機への対応 ※過去の日本との比較

江戸時代の幕藩体制では、各藩で自立した政治が行われており、国（日本）としてまとまっていなかった。その結果、黒船来航などの危機に対し、各藩で考え方がバラバラであり、薩摩藩や長州藩が欧米諸国と戦って敗北するなど、一つにまとまって対応することができなかった。これらのことから、欧米諸国と渡り合えるようにまとまる必要があったのではないか。

<p>6 3つの資料から読み取った情報を統合し、課題について考察したことを表現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの資料から読み取った情報を統合し、新政府が中央集権化を進めて近代的な国民国家をつくらうとしていたことを理解させる。 ・考察し表現したことと3で立てた予想とを比較し、自己評価をさせる。 	<p>●資料から情報を適切に読み取り、国民国家の基盤が形成されていくことを理解している。【知識】(ワークシート、行動観察)</p>
<p>新政府の目的を達成するためには、どのような政策が必要だと考えられるだろうか？</p>		
<p>7 自分が新政府の一員なら、目的達成のためにどのような政策が必要となるかを構想し、表現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新政府の目的に沿っているかを意識しながら、どのような政策が必要かを考えさせ、交流させる。 	
<p>〈期待する生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藩をなくし、新しく地方を支配する単位を定める。 理由：幕藩体制は、一つの国としてまとまっていくためには適しておらず、中央政府から役人が派遣され、支配を一元化させるなど、新しい仕組みが必要だと考えたから。 ・身分をなくし、同じ「国民」としてまとめられるようにする。 理由：身分が分かれていると、日本を自分の「国」として認識して守ろうという気持ちが持てないから。 ・税の仕組みを整え、政府が使えるお金を増やす。 理由：国の仕組みを大きく変えたり、工業や軍事に力を入れたりするためには、これまでよりももっとたくさんのお金が必要になってくると考えたから。 ・銃などの新しい武器を使える、まとまった軍隊をつくる。 理由：日本は軍事的な面が欧米の国々より遅れており、新政府は欧米の国々に負けないような国づくりを目指していたから。 		
<p>8 実際にはどのような政策が行われていったのか、概要を説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近代国家の基礎を整える諸政策（廃藩置県、身分制の廃止、殖産興業、学制、徴兵制、地租改正など）のが推進されていくことについて見通しを持たせる。 ・次時以降で詳しく扱う内容を含むため、本時では概要だけにとどめる。 	
<p>9 まとめと振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明治維新の目的を踏まえ、本時の学習課題について問いに対する自分の考えを書かせる。 ・本時の振り返りについてワークシートに記入させるとともに、ループリックで自己評価させる。 	<p>○廃藩置県や身分制度廃止などの諸政策の目的に着目して、江戸時代と比較をしながら、国家体制の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。【思考・判断・表現】(ワークシート)</p>